

# 『一人の笑顔のために』

## 『どんなに素晴らしい伝統や文化も、 誰かが伝えなければ消えてなくなる。』

この言葉は、ある研修会に参加していたとき、県の文化課の職員の方が話された言葉です。この言葉が当時の私の心に響きました。その当時私は、古代の製鉄法『たたら製鉄』に興味を持ち、学校の授業に取り入れ実践したいという思いを持っていました。しかし、どのようにしたらいいのかその方法もよく分からず、大変そうだなという思いもあり、取り組むことに踏み切れずにいました。その時に、この言葉に出会ったのです。



玉名荒尾地区は、県内でもたたら製鉄の遺跡がたくさんあるところなのです。肥後三大製鉄遺跡群の二つ（小岱山製鉄遺跡群：荒尾市）（三の岳製鉄遺跡群：玉東町）があります。三加和でも田中城跡近くにたたら製鉄遺跡が見つかっています。しかし、地元の人でもあまり知らないのが事実です。私はこの話を聞いた後、「よし自分が『たたら製鉄』の伝統文化を伝える人になろう。そして、生徒に伝えることで、生徒がまたその伝統文化を次の世代に伝えてくれるようになる。」と考え取組を決心しました。

### 『たたら製鉄』とは

千年以上の歴史を持つ、日本古来の製鉄法です。三加和の田中城跡近くで見つかった製鉄炉跡は平安時代後期のものと推測されています。

日本の伝統文化である日本刀は、この「たたら製鉄」でつくった鉄（玉鋼：たまはがね）からしかつくり出すことができません。現在では、日本で一箇所（島根県の「日刀保たたら」）でしかたたら製鉄は行われていません。ここでつくられた玉鋼が全国の刀鍛冶に分けられているそうです。



粘土で炉をつくり、炉の中に木炭を入れ燃焼させます。ふいごで炉の中に空気を送り温度を上げ、そこに砂鉄を入れます。木炭と砂鉄を交互に入れることを繰り返すのです。「たたら製鉄」では、これを三日三晩続けます。ふいごで炉に空気を送る方法は時代と共に進化していきますが、これを三日三晩休まずに続けることは不可能です。だからこの仕事は交代で行っていました。「たたら製鉄」では、ふいごの担当を「番子（ばんこ）」と呼びます。『かわりばんこ』という言葉はここから生まれています。

10月16日（土） 三加和中学校文化発表会で 「たたら製鉄」についても展示します。

※文化発表会では生徒による箏演奏、ダンス発表、作文発表のあとに、起業体験活動の各社の紹介につづき販売活動を計画しています。また生徒作品等の展示も行います。